市では、約36年前に畝傍南小学校でことばの教室が設置され、今年度から畝傍中学校にも設置された。通級指導教室の現況を聞きたい。

答 畝傍南小学校の指導教室は、ことばの通級指導教室だが、構音障がい、吃音だけの困難さだけではなく言葉以外の指導についてもニーズに応じている。今年度新たに開設した畝傍中学校の通級指導教室は、1学期は準備期間で、2学期より仮教室で開始した。

問 担当指導員が少ないようだが、増員の考えは。

答 小学校では44人、中学校では13人が通う中、指導体制は、畝傍南小学校は2人、畝傍中学校は1人である。要望により畝傍中学校に設置されたばかりであり、人員増は厳しいと思っている。

問 全国的には、通級指導を望んでも受けられない子どもが多くいる。また、保護者の同意が得られないケースもある。本市の状況は。

答 できる限り多くの方が受けられる体制をとっている。先生が気づいたことを保護者に伝える時など、デリケートな問題もあり、拒否する親もいるが、相談や説明に努め対応している。

問 特別な教材を必要とするこどももいると思うが、教材などの整備状態は。

答 畝傍南小学校では、前任者から引き継いだものや担当者が試作したものが多い。畝傍中学校の教材等は、学校の予算の中で対応している。また、タブレットなどのＩＣＴを活用した指導等も有効であり、充実を図りたい。

問 子ども総合支援センターと通級指導教室の連携は。

答 支援センターでは、相談員及び指導員による学校訪問や、センターへの来所により各学校の教員や保護者の不安等に対する相談を実施している。また、医大の医師などによる専門家の相談窓口もあり、連携を図っている。

ガン対策

問 胃がん対策について、昨年度の本市の受診対象者は3万7，216人、そのうち受診者は5，149人であった。過年度も調べたが、受診率は余り変わっていない。どのように考えているのか。

答 受診率はあまり変わっていないが、県内の他市に比べると高順位である。受診率は伸ばしたい。

問 胃がんの98％がピロリ菌の感染が原因で、50歳代以上の感染率が高く80％程度感染していると言われている。ピロリ菌の有無を調べる検査には、血液検査によりピロリ菌に感染しているかを調べるＡＢＣ検診がある。バリウム検査と平行してこのＡＢＣ検診を導入してはどうか。

答 国もこの対策に注目していると聞いている。国の動向を見極め判断したい。

一般質問

西川 正克（日本共産党）

市南西部の交通空白地域解消の取り組み

問 3月議会で、市南西部の交通空白地の取り組みについて質問し、奈良交通のバス、25系統45路線の廃止問題について取り上げ、八木御所線について聞いたが、市長は「路線は廃止になることを前提に、次の公共交通を考えなければならない」「新しい路線をつくる覚悟でないと補充できない」と答弁していた。その後、新聞報道により、6月の県の交通改善協議会で9系統が廃止、9月の協議会では八木御所線のうち八木神宮路線が廃止になるとの掲載があったが、これを受けての市の考えは。

答 9月に、25路線45系統の廃止存続等に関する方針の最終決定はあったが、八木御所線は合理化の上、存続となり、全便、八木駅、医科大学前、そして橿原神宮前駅を経由し八木駅御所間で運行されることになった。

問 昨年の7月に、川西の県住橿原団地の方が、県住に公共バスを走らせてほしいという内容の500筆の署名を、その後、更に500筆、合計1，000筆の署名を市長に提出している。市長は「橿原神宮からイオンモールへのルートを計画し、そのルート中で県住を経由し、県住バス停ができるように検討する」と答えていたと思うが、ハブ化の議論がある中、橿原神宮前駅からイオンモールまでの路線は考えているのか。

答 市の西部地域は、京奈和道の整備が順次進んでおり、市も千塚古墳群の整備を進めている。ここは大きく変化する地域であり、市民の交通ニーズ等も大きく変わると思われる。的確に把握し、本市の実情に応じた公共交通計画を図りたい。

問 どういった実状に応じた計画を考えているのか。

答 京奈和道の整備状況、また、千塚周辺の施設整備の進捗とあわせ、総合的に公共交通計画を図っていきたい。

問 交通空白の問題をどのように解決していくのかを聞きたい。

答 少なくとも八木御所線は存続する方向で今は進めている。そして、今後の公共交通の空白地の解消のためには、市域全体を見据えた形で、合理的かつ地域に適合した形での公共交通サービスを提供したい。近隣市町村との連携を視野に入れ、全体的に公共交通を考えなければならない。

問 近隣市町村との関係は大事だが、市の公共交通網はどうするのか。交通空白地帯を解決する気はあるのか。